

● 令和7年度 研修会 『口唇口蓋裂・口腔外傷 講演会』 ●

講師：広島大学大学院 医系科学研究科 歯科矯正学 谷本幸太郎 教授

実施日時：令和8年1月24日（土） 14:00～15:30

会場：オンライン配信（ZOOM開催）配信会場：広島大学病院臨床管理棟

対象者：保育・教育関係者

参加者：30名（看護師11名、養護教諭6名、保育士3名、保健師3名、
保育教諭2名、医師1名、言語聴覚士1名、理学療法士1名、
教諭1名、保育指導員1名）

担当：広島市

●講演内容

- ① 学校歯科検診
- ② 歯科矯正相談（保険適応）
- ③ 口唇裂・口蓋裂
- ④ 先天性疾患に対するチーム医療
- ⑤ 歯科矯正治療の概要
- ⑥ 唇顎口蓋裂総合成育医療センターの役割



●アンケート結果より

<参加のきっかけ>

「知識を得て、患者様に役立てるように」

「保育施設に口唇口蓋裂の子が入所しており、保育上の配慮など、保育所看護師とともに共有したいと考えた」

「口唇口蓋裂のある子どもも保育園に通っており、医療的ケア児担当の看護師として知識として知っておきたいと思いました。また、我が子が口蓋裂で生まれ口蓋形成術を終え、歯の生え替わり時期で矯正の相談等を始めている。見通しを持ちたかったという動機から参加しました」

「職場で疾患のある子に関わったことがあり、今回のセミナーに興味関心があったから」

「保育園で就労中で今後口唇口蓋裂の園児と出会う可能性があり参考にしたかったため」

「これから関わる児童の中に口唇口蓋裂の子がいるかもしれないので、理解を深めておきたいと思いました」

「新しい知識や最新の情報を得るため」

「園児の中に口蓋裂の子どもがいて、これからの治療と予後について勉強したかった」

「口唇口蓋裂について知りたかったから」

「受講を進められた」

「ことばの教室を担当しております。口蓋裂のある児童の理解を深めたいと思い参加させていただきました」

「以前口唇顎口蓋裂の患児に関わったため」

「口腔のケガの対応をしりたかったため」

「本校にも口唇口蓋裂で歯科矯正中の児童がおり、経過や予後を知りたかった」

「保育所内看護師です。今保育所内に出生時、小顎症・口蓋裂・気管狭窄もあり気管切開でカニューレを装着している子どもがいる為」

「姪が口唇裂のため」

<感想>

「口蓋裂のこどもは生まれてから成人を過ぎるまで、長期にわたる様々な角度からの支援が必要ということがよくわかりました。口蓋裂センターだけでなく、地域の歯科での虫歯予防や矯正歯科でのフォローもとてもよくわかりました。医療的ケア児対応看護師としても、母親としても良い学びができました」

「知らないことがたくさんあった中で、わかりやすい説明で理解しやすかった。また、成長段階で手術の有無などがあることも知ることができた」

「質問も事前に聞いていただけて、ありがたかったです」

「口唇口蓋裂について学ぶ機会が今までなかったので、大変勉強になりました。今の医療技術でとてもきれいに治るということがわかりました。今後の役に立てたいです」

「治療の経過やチーム医療の現状がわかり、たいへん参考になりました」

「治療のステップがわかりやすかったです」

「生後からの経過を知ることができ、本人も保護者もすごい努力をされているのだと感じました」

「症例と写真もあり、経過による変化がよくわかりました。今、保育所で医療的ケア児として通われている子どもさんも定期的に受診されています。先生が立ち上げられた唇顎口蓋裂総合成育医療センターがある事で、相談窓口が増えて今後の対応に不安のあるご家族や子ども達が安心して成長できる場が増えることは、とても良い事だと感じました」

●相談員より一言

通算 19 回目となる病弱児セミナーでは、初めて歯科領域の医師に講演を依頼しました。参加申込みは多くはありませんでしたが、保育・教育関係者を中心に熱心な方々が集まり、充実した学びの時間となりました。

口唇裂・口蓋裂は学校や園でも関わる機会の多い疾患であり、今回の講演はこの領域に特化した大変貴重な内容でした。他県からの参加もあり、参加理由として「在籍児に口唇裂・口蓋裂のお子さんがあるため」という声も多く聞かれました。

講師には事前質問にも丁寧にご対応いただき、アンケートでは多くの感想が寄せられました。現場での支援に悩む関係者にとって、非常に有益な研修会となったと考えています。